第５学年１組　　音楽科学習指導案

　　印西市立小林北小学校

指導者　　川上　佳代子

展開場所　　　音楽室

１　題材名　　音の重なりを感じ取ろう

　　教材名　　表現（歌唱）｢いつでもあの海は｣　佐田　和夫　作詞／長谷部　匡俊　作曲

鑑賞「アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章」　　モーツァルト　作曲

|  |
| --- |
| 【本題材で扱う学習指導要領の内容】　第５学年及び第６学年A　表　現　（１）歌唱の事項　ア，イ，ウ(ウ)B　鑑　賞　（１）ア，イ〔共通事項〕（１）ア　・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素　　　　　　　　　　旋律,　音の重なり |

２　題材について

　（１）題材の目標

　　　○　曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに，歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，思いや意図に合った表現をするために，旋律，音の重なりを聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付ける。　　　　（知識及び技能）

　　○　旋律，音の重なりを聴き取り，旋律の重なり方の違いと曲想との関わりについて考え，それらを生かして表現を工夫し，どう表現するかについて思いや意図をもったり，曲や演奏のよさなどを見いだしながら，曲全体を味わって聴いたりする。

（思考力，判断力，表現力等）

　　○　楽器の音や歌声が重なり合う響きに興味・感心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組むとともに，旋律や音の重なりの面白さに親しむ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力，人間性等）

(２)　題材設定の理由

　　　本題材では，｢いつでもあの海は｣と｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣を教材として，合唱教材と弦楽合奏という性質の違う２つの楽曲であるが，ユニゾン・主な旋律と伴奏・呼びかけの部分の３つの旋律や音の重なり方の違いや変化が生み出す曲想に焦点をあて，互いの声部を聴き合いながら合唱したり，異なる音域の弦楽器の音が重なり合う響きを味わって聴いたりすることをねらいとしている。｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣は，４つのパートからできており，第１バイオリン，第２バイオリン，ビオラ，チェロ，コントラバスで演奏される。チェロとコントラバスは同じ旋律を担当するが，それぞれの楽器の音色の違いやよさに触れ，旋律や音の重なり方が変化することから生み出される響きを感じ取らせたい。そこで｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣の前に合唱曲｢いつでもあの海は｣に取り組み，ソプラノとアルトの旋律の響きの違いや旋律の重なり方の違いを生かすことで歌唱表現につなげていく。その知識をもとに旋律や音の重なり方について注目させ，｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣を聴く。そこで学び取った旋律や音の重なり方の違いから感じた響きのよさや効果を，｢いつでもあの海は｣に戻すことで，より豊かな歌唱表現につながると考え，本題材を設定した。

（３）児童の実態（男子２０名　女子１０名　計３０名）

　　　　本学級の児童に音楽の授業に対するアンケートを実施した結果，歌うことがとても好きは５９％，好きは１８％，ふつうは１５％，あまり好きではないは７％であった。音楽を聴くのがとても好きは６３％，好きは１１％，ふつうは２６％，あまり好きではないは０％であった。好きな理由として，どんな場面か考え，感想を書くのが楽しいからという理由があげられた。４年生の時の鑑賞では，｢アラ　ホーンパイプ｣について学習した。児童は，トランペットとホルンの音色の響きの違いについて感じ取り，お互いによびかけ合って演奏していることに気付くことができた。ただ，呼びかけ合う面白さやよさについて考えられた児童は少数であった。また，４年生の時には卒業式の合唱曲として，｢明日へつなぐもの｣の２部合唱に取り組み，ソプラノとアルトの旋律の重なり方について学習してきた。ほとんどの児童は，歌唱の練習をする中で旋律や音の重なり方は理解できていたが，それぞれにふさわしい歌唱表現を考え表現することは難しかった。このことから，｢いつでもあの海は｣と｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣の学習を通して，旋律や音の重なり方に焦点を当て，それぞれのよさや効果について考えられるようにしていきたい。そして，今後の歌唱や合奏，鑑賞活動においても旋律や音の重なり方に注目し，それぞれのよさを生かした表現活動ができるようにしたい。

（４）指導観

　　　　｢いつでもあの海は｣では，アの全員で同じ旋律を歌う部分，イの２つの旋律が異なるリズムで重なる部分，ウの２つの旋律が同じリズムで重なる部分の３つに分かれている。アルトとソプラノの旋律がどのように重なり合っているかを理解し，そこから生み出される雰囲気やよさを感じ，表現活動につなげていきたい。｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク 第１楽章｣では，全員で同じ旋律を演奏する部分・主な主旋と伴奏を重ねて演奏する部分・たがいに呼びかけ合うように演奏する部分の３つに分かれており，｢いつでもあの海は｣の学習を生かしていくことで，旋律や音の重なり方を聴き取ることの手助けとなると考える。その手段として，それぞれに色分けしたカードを決めて旋律や音の重なり方が変わっていくことに気付く活動をしたり，体で旋律を表現していく。旋律や音の重なり方が変わると，曲の感じがどのように変わるか考え，曲の面白さを味わわせたい。児童にはロイロノートに旋律や音の重なり方の違いによる感じたことやよさついて意見を書かせ，グループで意見を共有させていきたい。そして，今回の学習を通して，旋律や音の重なり方の違いや，そこから生まれる響きの違いやよさについて理解を深め，今後の歌唱活動，合奏，鑑賞活動につなげていきたい。また，印西市で開催されるハートフルコンサートに歌唱で５年生として出場する予定であり，そこで歌う楽曲においても今回の学習を生かし，表現の工夫を考えながら音楽活動を楽しめるようにしていきたい。

３　題材の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知曲想及びその変化と，旋律の重なり方に気付いている。（歌唱，鑑賞）技思いや意図の合った表現をするために必要な，互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌唱) | 思①旋律，旋律の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取り表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。　　　　　　　　　　　　　（歌唱）思②旋律，音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) | 態曲想と旋律の重なりなどの音楽の構造に興味・関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。　（歌唱・鑑賞） |

４　題材の指導と評価の計画（４時間扱い）（本時　４／４　時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時配 | ◎ねらい○主な学習内容　　・学習活動☆［音楽を形づくっている要素］ | ○教師の指導・支援・目指す児童の姿 | 評価の観点〈評価方法〉 |
| 知・技 | 思 | 態 |
| 第一次 | １ | ◎｢いつでもあの海は｣の曲の雰囲気をつかみ，旋律を覚えよう。 | 知観察 |  |  |
| ○「いつでもあの海は」を聴き，イメージをもつ。・曲の雰囲気をつかむ。・パートがいくつあるか考える。・アルトパートが登場する場所が分かる。○｢いつでもあの海は｣の旋律や音の重なり方について知る。・アはユニゾンで，イとウのアルトとソプラノの旋律の重なり方が違うことに気付く。○のソプラノとアルトの旋律を確認する。・それぞれのパートの旋律を歌唱する。☆［旋律］ | ○曲を聴かせ，曲の感想を発表する。・ゆったりとして海をイメージする曲だな。・イからパートが分かれるな。○イとウの旋律の重なり方について，図形譜を使って考えさせる。・アは同じ旋律で，イはソプラノとアルトが交互に，ウは同じリズムで重なる。○音源やピアノで音取りをする。・音程をとって歌唱している。 |
| ２ | ◎旋律や音の重なり方を生かした歌い方について考えよう。 |  | 思発言 |  |
| ○旋律や音の重なり方が変わることで，どう感じ，どのように表現するか考える。・ア，イ，ウの雰囲気を感じ取り，歌い方について考えることができる。○｢いつでもあの海は｣を合唱する。・旋律や音の重なり方による違いを理解し，歌い方について考えながら歌唱できる。☆［音の重なり］ | ○ア，イ，ウの歌い方について，考えを発表させる。・アはユニゾンなので声が一つになるように，イは互いのパートを聴き合いながら会話しているように，ウはハーモニーをきれいに各パートをそろえて歌いたいな。○出た意見をもとに歌唱する。・音程をとりながら，互いのパートを聴きながら声をそろえて歌唱している。 |
| 第二次 | ３ | ◎旋律や音の重なり方に注目して聴こう。 | 知　観察 |  |  |
| ○｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣を聴き，曲のイメージをもつ。・曲の雰囲気をつかむ。○演奏で使用されている楽器の音色について理解する。・バイオリン，ビオラ，チェロ，コントラバスの音色の違いに気付くことができる。○｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣の旋律や音の重なり方について知る。・重なり方が変わったところで，重なり方の違いで色分けした紙を上げる。○旋律や音の重なり方について，全体で確認する。・色分けした紙で旋律の重なり方を確認する。☆〔音の重なり〕○体でそれぞれのパートの動きを表現する。・旋律に合わせて体を動かしている。 | ○曲の感想を発表させる。・バイオリンの音が聴こえる。・元気が出る曲だな。○演奏している様子を映像で見せた後，それぞれの楽器の音色が分かる音源を聴かせる。・バイオリンは華やか，ビオラは渋い音。・チェロやコントラバスは低く落ち着くな。○旋律の重なり方が３つあることを復習させてから鑑賞する。・ユニゾン・主旋と伴奏・呼びかけの部分を聴き分け，色分けしたカードを上げている。○smalinの映像を見せ，色分けしたカードで線分図を作り確認させる。○ユニゾン以外は児童を高音と低音で分けて動いてみるよう促す。・ユニゾンは音に合わせ腕を伸ばしている。・主旋と伴奏では伴奏が細かく刻んでいる。 |
|  | ４本時 | ◎旋律や音の重なり方のちがいによるよさを見つけよう。 | 技聴取 | 思②記述・発言 | 態活動観察 |
| ○｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣を鑑賞する。・前時で行ったように，体でそれぞれのパートの動きを表現する。○重なり方の違いによる感じたことや効果について，感じ取ったことをロイロノートに入力する。・個人で考える。・グループで意見交換する。・全体で発表する。☆〔音の重なり〕○よさを味わいながら鑑賞する。○｢いつでもあの海は｣を歌唱する。・ア，イ，ウの歌い方を考えてから歌唱する。☆〔旋律　音の重なり〕○振り返りをする。 | ○主な旋律の動きを体で表現する。・音の重なり方について，思い出している。○グループの友達の意見を参考にしたり，音楽の感じを表す言葉の例が書かれたカードを参考にしたりするよう促す。・同じ旋律のところは力強いな。・リズムを刻んで元気な感じ。・呼びかけ合うとこは柔らかくなめらか。○友達の発表を聞いた上で，再度全体で鑑賞し，曲の魅力を味わえるよう促す。○これまでの学習を通して，ア，イ，ウにふさわしい表現を考え合唱する。○本時の学習について，ロイロノートに振り返りをまとめる。・主旋律と伴奏は，伴奏があることで主旋律がひきたつことがわかったので,ソプラノとアルトに分かれて歌う時は,ソプラノパートをひきたてるように音量に気をつけて歌いたい。 |

５　本時の指導（４／４）

　（１）本時の目標

　　　　・旋律の重なり方の違いによるよさを見つけ，曲全体を味わって聴いたり，合唱したりする。

　（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時配形態 | ○学習内容　　・学習活動☆［音楽を形づくっている要素］ | ○教師の指導・支援・目指す児童の姿 | 評価の観点〈評価方法〉 |
| 知・技 | 思 | 態 |
| 5205510 | ○｢アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章｣を鑑賞する。・前時で行ったように，体でそれぞれのパートの動きを表現する。○めあてをつかむ。○重なり方の違いによる感じたことや効果について，感じ取ったことをロイロノートに入力する。・個人で考える。・グループで意見交換する。・全体で発表する。☆〔音の重なり〕○よさを味わいながら鑑賞する。○｢いつでもあの海は｣を歌唱する。・ア，イ，ウの歌い方を考えてから歌唱する。☆〔旋律　音の重なり〕○振り返りをする。 | ○主な旋律の動きを体で表現する。・音の重なり方について，思い出している。旋律の重なり方のちがいによるよさを見つけよう。○グループの友達の意見を参考にしたり，音楽の感じを表す言葉の例が書かれたカードを参考にしたりするよう促す。・同じ旋律のところは力強いな。・リズムを刻んで元気な感じ。・呼びかけ合うとこは柔らかくなめらか。○自分の感じ方と比較しながら,友達の意見を聴くよう話す。・自分も同じように「力強い感じ」だと思った。・たしかに,優しく会話をしているような感じだな。○３種類の旋律の重なり方について,感じたことを発表するよう促し,板書にまとめる。・全員で同じ旋律を演奏しているので,力強い感じがした。・たがいに呼びかけ合うように演奏しているので,優しく会話をしている感じがした。○友達の発表を聞いた上で，再度全体で鑑賞し，曲の魅力を味わえるよう促す。○これまでの学習を通して，ア，イ，ウにふさわしい表現を考え合唱する。・アは，声の響きが一つになるように気を付け,歌う。・イとウは，相手のパートや全体の響きをよく聞きながら，声を合わせて歌っている。○本時の学習について，ロイロノートに振り返りをまとめる。・同じ旋律のところは,よくそろって演奏していてかっこよかったので,同じ旋律を歌う時は声の高さや音量などをそろえて,友達の声をよくききながら歌っていきたい。・主旋律と伴奏は，伴奏があることで主旋律がひきたつことがわかったので,ソプラノとアルトに分かれて歌う時は,ソプラノパートをひきたてるように音量に気をつけて歌いたい。 | 技聴取 | 思②記述・発言 | 態活動観察 |

(３)本時の評価

　　○思考・判断・表現②の評価の場合

|  |  |
| --- | --- |
| Aと判断される児童の状況の例 | 旋律の重なり方の違いによる良さを感じ取り，発言したりしている。 |
| Cと判断される児童の状況の例 | 　曲の構造を視覚的にわかるものを提示し，グループの友達の意見を参考にしながら，旋律の重なり方の違いの良さを１つでも考えられるように促す。 |

(４)板書計画

|  |
| --- |
| 目標：音の重なり方のちがいによるよさを見つけよう〈アイネ　クライネ　ナハトムジーク　第１楽章／モーツァルト〉□□□□□□□□□□□□□全員で同じ旋律を演奏する部分　　主な旋律と伴奏を重ねて演奏する部分　　　たがいによびかけ合うように演奏する部分　　　　　今日の授業の感想良さ・効果　 ・力強い感じ　　　　　・旋律はなめらかに滑っている感じ　・優しく会話をしている感じ　　　わかったこと　　　　　　・みんなの気持ちが　　・伴奏は電車が走っている感じ　　　・静かにそっと歩いている感じ　　学んだこと　　　　　　　そろっている感じ　　・旋律と伴奏が重なっていて　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　これからの学習　　　　　　・低い音から高い音まで　豪華な感じ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　に生かしていき　　　　　　　　　　　重なっていてきれい　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　たいこと　など |